68　Tl運動負荷心筋SPECTでの慢性完全閉塞性病変（ＣＴＯ）の経時変化（貫壁性心筋梗塞例での検討）

武藤　浩、山崎純一、細井宏益、石黒　聡、山科久代、内藤勝敏、最所賢一郎、宇野成明、森下　健（東邦大一内）

CTO特に側副血行路を有する貫壁性心筋梗塞症例に対しTl心筋SPECTを経時的に行ない臨床経過特に梗塞後狭心症(PIAP)との関連及びTl心筋SPECT上の変化について検討した。対象はCTOに対しｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ非施行例１４例。再分布例は１０例に認められ、うち５例がPIAPを発症した。しかしその再分布は完全再分布は皆無であり、梗塞部周辺部の再分布や不完全再分布であった。経時的変化においては視覚的評価、定量評価において改善は認められなかった。Tl心筋SPECT上本条件を満たす貫壁性梗塞症例はViableな心筋の評価にて完全再分布は認められず、またその経時的変化においても変化は認められず、今後本症例の再灌流療法の是非について考慮を要する。

69　**^{201}Tl持続静注法による心筋バイアビリティ評価の臨床的有用性**

西島博満、今村義浩、福山尚哉（松山赤十字循環器）

負荷^{201}Tlシンチで陰影欠損を示す17例に^{99m}Tc-MIBI(740MBq)1回静注と^{201}Tl(111MBq)の4時間持続静注を施行、4時間後のdual SPECT像での^{201}Tlの"fill-in"の有無により、2群間で血行再建術前後の左室造影と^{201}Tlシンチの以下の指標を比較した結果、本法の有用性が示された。

	fill-in(+)群(n=10)		fill-in(-)群(n=7)	
	術前	術後	術前	術後
Wall Motion	7.6±1.3	4.1±0.9**	5.9±1.5	6.3±1.5
LVEF	59±6	64±4	57±5	59±5
Defect Score	32±3	20±3**	29±3	22±3
Extent Score	43±7	25±7**	35±8	28±8
Severity	51±13	28±12*	41±12	25±10

* $p<0.05$　** $p<0.01$

70　PTCA後の負荷TL心筋シンチグラムの至適施行時期について－POBAとSTENT 例を比較して

長　慎一，阿部正宏，岩沢博人，藤田全健，小川　隆，白石裕盛，栗原正人，阿部敏弘，（東医霞ケ浦循内），永井義一（東医八王子循），伊吹山千晴（東医大２内）

PTCA後 100例の３および６カ月の負荷TL心筋シンチグラム（TL-Ex ）をPOBA 50 例（Ｐ群）とSTENT 留置 50 例（Ｓ群）に分け，同時期の冠動脈造影と比較（後ろ向き試験）．　Ｐ群：３カ月のTL-Ex で陽性 8例，再狭窄（実測51% 以上）15例，TL-Ex 陽性の 8例を含む10例は最小血管径（MLD ）1.0mm 以下のためRe-PTCA ．６カ月のTL-Ex で陽性 4例，再狭窄 5例，TL-Ex 陽性の 4例はRe-PTCA ．Ｓ群：３カ月のTL-Ex で陽性は無，再狭窄 2例，Re-PTCA は無．６カ月のTL-Ex で陽性 8例，再狭窄 10例，TL-Ex 陽性の 8例はRe-PTCA ．　TL-Ex 至適施行時期はＰ群で３および６カ月，Ｓ群で６カ月である．

Presented by Medical*Online